

## 話し合いを家庭での課題としたハイブリッド型授業の提案

－文字によるチャット形式によるグループ内での意見交換の取り組み－

梶本佳照<sup>1)</sup>\*

1) 新見公立大学健康科学部健康保育学科

(2021年12月1日受付、12月22日受理)

新型コロナウイルス感染症対策のために、2020年、急速に遠隔・オンライン教育が普及した。遠隔・オンライン教育を学校休業期間中の一時的な方法であるという考えもあるかもしれない。しかし、中央教育審議会(2021)の中教審答申第228号において「ICTの活用や、対面指導と遠隔・オンライン教育とのハイブリッド化による指導の充実」が提言されている。

そこで、今回グループ内での意見交換をハイブリッド型授業としてオンライン上で、文字によるチャット形式でおこない、その効果を調べた。その結果、文字による意見交換の方が、口頭よりし易いと回答した人数は、36人中21人で、その理由としては文字をゆっくりと読むことができるので意見を理解しやすい。自分の意見をまとめやすい。ゆっくりと自分の考えを整理することができる。口頭で伝えるのが苦手なので文字の方が考えを伝えやすい。などであった。このことより、文字によるグループ内での意見交換には、相手の発言が理解し易いとともに自分の意見も発言し易く、意見交換を深めることができる効果があり、特に、口頭での意見交換が得意でない学生には、利点が多いことが示唆された。

(キーワード) 遠隔・オンライン教育、対面授業、ハイブリッド型授業、同時双方向、オンデマンド

### 1. はじめに

遠隔・オンライン教育の種類を、文部科学省(2018)では、「①同時双方向型(テレビ会議方式等)、形態は「同時」かつ「双方向」と②オンデマンド型(インターネット配信方式等)、形態は、「同時」又は「双方向」である必要はない」に分類されている。

新型コロナウイルス感染症対策のために、2020年、急速に遠隔・オンライン教育が普及した。遠隔・オンライン教育を学校休業期間中の一時的な方法であるという考えもあるかもしれない。しかし、中央教育審議会(2021)では、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(中教審第228号)において、「ICTの活用や、対面指導と遠隔・オンライン教育とのハイブリッド化による指導の充実」が提言されている。その中で、「端末を日常的に活用するとともに、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育とを使いこなすハイブリッド化など、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで学校教育における様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要である。」「学

習活動の質を高めるため児童生徒の発達の段階を踏まえ、学校の授業時間内において教師による対面指導に加え目的に応じ遠隔授業やオンデマンドの動画教材等を取り入れた授業モデルを展開するべきである。」と述べられている。

また、ハイブリッド型授業については、堀田(2021)は、「従来の対面授業に加え、オンラインでの学習活動の可能性をつけ足したものである。子供たちも教師も慣れてくると、これまでは対面でやっていたことの中に、むしろオンラインでやった方が合理的だというものが見つかる。それらを積極的にオンラインでの学習軸に移行させ、対面授業とオンラインでの学習の新しいバランス点を見つけること、それが当面の課題である。」と述べている。

対面授業でおこなっている活動の中で、どのような活動をオンラインでの活動にすればよいかであるが、今回の研究において、その事例を研究することにした。

対面授業では、課題について数人のグループに分かれて、口頭で意見交換をすることがよく行われている。しかし、次のような問題点がある。

1) 学生個々の発言を把握しにくい

\*連絡先: 梶本佳照 新見公立大学健康科学部健康保育学科 718-8585 新見市西方1263-2

教員としては、各グループで誰がどのような発言をしているのか把握しようとグループ間を机間巡視するのであるが、詳細には把握しにくい。

2) グループ内での口頭による発言に抵抗がある学生がいる

グループ内で相手に向かって自分の意見を言うことに抵抗を感じる学生もいる。口頭でディスカッションする力をつけることは大切であると指導者側が、一方的に決めてしまい、常に口頭による意見交換ばかりであると、それを苦手とする学生にとっては苦痛なのではないかと考える。

この点では、2つの要素が考えられる。1つは、「グループ内の人間関係が気になって、相手の顔を見てると遠慮して、自分の意見を上手く言えない。」、もう1つは、「口頭での発言自体が苦手な上手くできない。」である。

3) 時間的余裕がなく、発言のスピードについていけない学生がいる

口頭による話し合いは、限られた時間内で行われるために、発言しようとしても話し合いのスピードについていけない学生もいる。ゆっくりとした自分なりのテンポなら話し合いができる学生もいるのではないか。

以上のことから、今回は、対面授業の中でよく行われているグループ内での意見交換（話し合い）を、対面授業の後で、家庭での課題という形で文字によるチャット形式でおこないその効果を調べることにした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、口頭でおこなっているグループ内での意見交換を、家庭での課題とし、オンライン上で、文字によるチャット形式でおこない、その授業効果を明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

### 3.1 調査の実施時期と対象

自然科学 I（選択科目）受講者（健康科学部健康保育学科、看護学科1年生36名）

### 3.2 調査期間

2021年11月2日～11月5日

### 3.3 調査方法

教務・学習支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）のアンケート機能を利用したWeb調査

### 3.4 調査内容

文字（チャット形式）による意見交換と口頭による意見交換のし易さの比較とその理由について尋ねた。設問の内容を表1に示した。

表 1. 設問の内容

No.	設問
	自然科学 I の授業で「よくわかるESDまんが読本1・2」から自分が選んだテーマについて、UNIPAを使って文字を使ったチャット形式でのディスカッションをしました。 ディスカッションのし易さについて、次の質問に答えてください。ディスカッションのし易さには、気持ちのし易さも入っています。
1	文字（チャット形式）の方が口頭よりし易い
2	口頭の方が文字（チャット形式）よりし易い
3	どちらも変わらない
	回答した理由

## 4. 調査結果

### 4.1. 具体的な実践内容

#### 4.1.1. 授業内容

ESD（持続可能な開発のための教育）教材「よくわかるESDまんが読本1・2」（発行：岡山市京山地区ESD推進協議会）の39のテーマの中から各自1つテーマを選び、それについて自分が深く調べたり、取り組んだりしたことについて、グループ内でお互いに意見交換をすることにより、自分の考えを深めたり、考え方を広げたりすることを目的にした。

#### 4.1.2. 意見交換の方法

本学が使用している教務・学習支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）のWeb Learning メニュー（図1）より、プロジェクト管理を選択し、チームを学籍番号順に、履修者36名を4名ずつ9グループに分けて実施、授業者が各チームにチームリーダー1名を決めた（図2）。

グループのメンバーは、次の要領で意見交換をおこなった。



図 1. 教務・学修支援システムの授業関係メニュー

話し合いを家庭での課題としたハイブリッド型授業の提案

プロジェクト名	チーム数	チーム管理	ディスカッション管理
ESDまんが読本を読んで、自分が…	9	チーム管理	設定

チーム名	チームリーダー	メンバー数
チーム1		4名
チーム2		4名
チーム3		4名
チーム4		4名
チーム5		4名
チーム6		4名
チーム7		4名
チーム8		4名
チーム9		4名

図2. 意見交換（ディスカッション）チームの設定

- ①各自発表するテーマを1つ決める。
- ②決めたテーマについて、選んだ理由も含めて作成したワークシートにそって説明する。
- ③お互いの発表に対して意見交換をする。
- ④必ず、自分が選んだテーマについての発表も含めて3回以上、意見を述べる。

4.2. 意見交換の様子

2021/06/27

A

私が選んだテーマは水の使用についてです。私たちは、水があるのが当たり前の生活を送っているため世界と比べると実際どうなのか知りたく思い調べました。日本は、1日の使用量が世界平均に比べ多いことがわかりました。また、先進国などは十分な水資源が行き届いているのに対し発展途上国やアフリカ地域には水資源が少なく子供たちが何時間もかけて水を得ており教育を受けられないという状況そして、汚水を飲み病気になるやすい状況にあります。SDGs目標の中にも水資源についての目標も掲げられており水資源の改善や発展が進められています。シャワーなどだしっばにしない、血汚れを取ってから洗うなど水資源を大切にするために節水など自分たちに出来ることをやるのが大切です。

添付資料を確認

図3. 意見交換例1

2021/07/07

E

F

さんの発表を読んで、日本人一人が一日に使っている生活水の量が世界平均の倍であることを知りました。また、産業などに使われる水ではなく水道水や食料に使われる水の量が世界で一番多いと記述されているのを見て、普段私たちが心がければ減らすことができる水であるため、私も今まで以上に水の大切さを意識して節水に取り組みたいと考えました。私が今できること「③NPO・NGOに寄付をする」のNPO・NGOは、寄付されたお金を使ってどのような水に関する支援の活動を行っているのが気になりました。

2021/07/08

F

E

さんの発表を読んで、毎日、大型トラック130台分の衣類がゴミとして捨てられていることを初めて知りました。そして、廃棄される服の97%は家庭から出ているという記述から、驚かされたからといって、すぐに服を捨てるのはやめようと思えました。また、原材料の観点には、1年間で東京ドーム67000杯超え、約84億mlの水が使われていると知り、私は水のことについて調べたので、深刻な問題だなと思えました。今できることとして、「リメイクできるものはリメイクして使用する」は自分でもできそうだし、楽しそうなので、やってみたいです。

G

私が選んだテーマは「食べ物を捨てる国」です。選んだ理由は、食糧問題や食品ロスについては昔から興味があり、最近飲食店でアルバイトを始めたことで食品ロスの現状を目の当たりにしてさらに問題を意識するようになったからです。調べたこととしては、世界では食料生産量の1/3にあたる約13億トンが捨てられています。そして日本では、食べ残されるのに捨てられた「食品ロス」が年間約646万トンと考えられており、これは一人当たりお茶碗一杯分のご飯の量(約132g)が毎日捨てられている計算になります。また、食べ物を育てても技術不足で収穫できない、設備不足で貯蔵や加工ができず輸送手

図4. 意見交換例2

B

A

さんの資料を読んで、今私たちは水道をひねったら当たり前に水が出てくる環境にいるけど、それは当たり前のことではないんだなと思いました。以前にテレビでアフリカの子供が遠くまでバケツを持って、水を汲みに行っているのを見たことがあります。本当に大変そうでした。改めて、水を大切に扱わないといけないと思いました。

2021/07/07

C

B

さんの資料を読んで、熱帯林の減少の深刻さを改めて感じました。私は高校時代に地理を選択していて、熱帯林の減少については知っていました。ただ、自分ができることはないかと思っていました。Bさんの資料で、マイ箸、マイバックの持参など、わたしたちにもできることがあるんだと知り、これから実践していこうと思いました。

2021/07/08

D

B

さんの資料を読んで、自分が思っていた以上に毎年熱帯林が減っていることを知りました。マイバックを使用する以外にも再生紙を使ったり紙を使ったりさまざまなことが自分たちにもできるがあると知ったのでできることを実践していこうと思います。

図5. 意見交換例3

図3、4、5は、意見交換の例である。

表2は、各チームの意見交換の回数（ディスカッション回数）である。

表2. 各チームの掲示数

チーム名	掲示数 (意見交換数)
チーム1	16
チーム2	15
チーム3	14
チーム4	8
チーム5	11
チーム6	7
チーム7	16
チーム8	17
チーム9	16

4.2. 質問紙調査結果

4.2.1. 文字（チャット形式）と口頭による意見交換のし易さの回答数

文字（チャット形式）による意見交換と口頭による意見交換のし易さについての回答の結果は、「文字（チャット形式）の方が口頭よりし易い」が21、「口頭の方が文字（チャット形式）よりし易い」が12、「どちらも変わらない」が3であった（図6）。

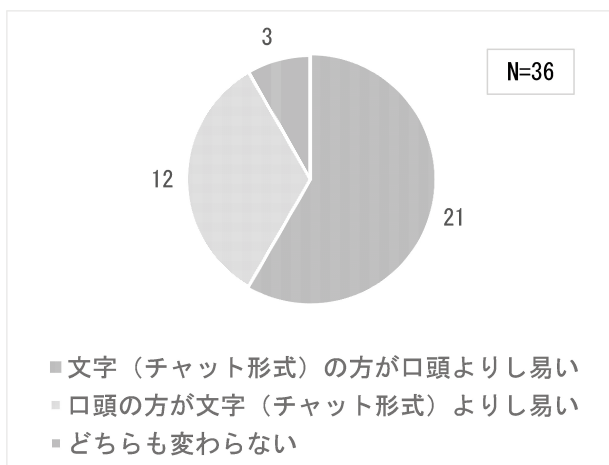


図6. 文字と口頭による意見交換のし易さについて

#### 4.2.2. 「文字（チャット形式）の方が口頭より意見交換がし易い」の理由

回答理由について、カテゴリ別に分類するとともに、具体的な回答内容を記述する。

- 1) 文字の方が、何回も、また、ゆっくりと読むことができるので意見内容を理解しやすい
  - ・口頭だと、相手の意見が長すぎて覚えられず、せっかくの発表に意見できないから。
  - ・他の人の意見を聞き逃すことがない。

実際に話すよりも、何回も読むことができるから、理解するまでに時間がかかっても大丈夫だったので、チャットの方が良いと思った。
- 2) 文章の方が、自分の意見をまとめやすい
  - ・自分の意見が言いやすかったから。
  - ・伝えたい内容を文章にすることでより分かりやすくまとめることができるから。
  - ・口頭で言うより、文章の方が言いたいことが綺麗にまとめられるから。
  - ・文字にした方が、咄嗟に話すより変な文にならず発表しやすかったから。
  - ・他の人の意見に対して、自分なりに考えをまとめて、口頭よりも丁寧に自分の意見を書くことができる。
- 3) 時間に追われることなく、ゆっくりと考えを整理することができる
  - ・自分の意見がまとまってから発言ができるから。
  - ・口頭では考えをまとめて話すのが苦手だけど、チャットにすることで、文字に起こしながらゆっくりと自分の考えを整理できたから。
  - ・文字だと時間に追われることなく、時間をかけて考えることができる点が良いと思いました。

- ・その場で考えがまとまりにくい意見や気持ちなどを文字であったら考えてから打つことができるから。

- 4) 口頭で伝えるのが苦手、文字の方が考えを伝えやすい
  - ・口頭で上手く伝えることが出来ない私みたいな人でも気軽に発言することが出来たからです。
  - ・口頭だと緊張してしまい、上手くしゃべれなかったりするが、文字だとゆっくり考えることができることや、自分のペースで発言できるので良いと思ったから。
  - ・人の前で自分の考えを言うことが苦手なので、文字の方がしやすと感じました。
  - ・あまり話したことの無い人であると口頭より文字の方が自分の思ったことを素直に言いやすと感じたから。

- 5) 文字だと自分の意見を整理し、まとめ、伝えやすい
  - ・言いたい事を整理して、相手に思った事を伝えることが出来るからです。
  - ・自分の意見をしっかりまとめた上で、文字にできるのでいいと思った。口頭だと全部の意見を言えない可能性があるが文字入力可能な限り意見を言えると思った。

- 6) 意見を見返すことができる
  - ・自分や相手が何を伝えたかがわかるから。
  - ・自分の意見が目に見えるので、どういう意見をしたのかが自分でも分かると思ったからです。
  - ・他の人の意見も後から見直せるというところも良いと思いました。
  - ・自分の言いたいことを綺麗にまとめて伝えることができるし、自分も含めた全員の意見が文字で残るため見直すこともできてディスカッションしやすいから

- 7) ゆっくり考えることができる
  - ・じっくり考えたり、頭の中でゆっくり整理したりすることができるためチャット形式の方がやりやすかったがこれから人前でプレゼンをしていくことを考えたら口頭でディスカッションをする練習をした方が良いのかも思う。
  - ・文字だと自分のペースで考えながら意見交換することができるし、全員が平等に発言しやすく、誰かの発言への応答もしやすいから。

#### 4.2.3. 「口頭の方が文字（チャット形式）より意見交換がし易い」の理由

- 1) 口頭の方が、意見を聞いている人の反応がわかる
  - ・口頭だとディスカッション聞いている人の反応がわかるから。
  - ・チャット形式だと上手く伝えたいことが伝わっている



かわからないため、口頭の方が良く感じた。

- ・私はいつも説明をする時にその場で聞いてくれる人たちの表情を見ながら適宜、説明を加えて話すので、チャット上だと難しかったです。
  - ・口頭の方が身振りとかも使えるので伝えやすいし、補足情報とかも入れやすいからです。
- 2) 口頭の方が、その場で発言者の意図をくみ取りやすい
- ・文字だとひと目でわかって理解がしやすいけど、口頭の方がその場で様々な意見を交換出来るため、深い話し合いが出来ると思ったから。
  - ・口頭の方が伝わりやすく、意図が汲み取りやすい。
  - ・私は個人的に、実際に会って話しながら説明する方がやりやすいです。

- 3) 文字による意見交換は、口頭よりも、時間がかかる
- ・チャット形式だと、全員が提出するまでに差があるため常にチャットを確認しなくてはならないのが大変だった。口頭だと一日で終わるので負担が少ないと思う。
  - ・チャット形式だと、人によって提出する時間やユニバを開いている時間が違うため、思うようにスムーズに話し合いを進めるのが難しかったです。
  - ・チャット形式だと口頭よりも時間がかかるため、やりにくかった。
  - ・チャット形式の場合、自分以外のメンバーが発言してくれるまで次の発言ができず進まないから。
  - ・口頭の場合、発言を促せるが、チャット形式の場合、相手がパソコンやスマートフォンを見ていないと発言を促せないから。
  - ・発言をみたり、自分が発言をしたりすることを忘れてしまいそうになったからです。

#### 4.2.4 どちらも変わらない

- 1) どちらにも良いところがある
- ・チャット形式だと、自分が言いたいことを何度も見直して直しつつ、伝えたいことを相手に分かりやすく伝えやすいから。口頭だと、相手がどんな反応をしているのを見ながら説明出来るので伝えやすいから。
  - ・チャット形式だとそれぞれが好きなタイミングで参加でき、考える時間が口頭よりあるのは良かった。だが、早く取り組む人と遅くまで残す人とで時間差があってやりづらい部分もあった。

## 5. 考 察

グループ内での意見交換の方法として、授業内で口頭に

よりおこなうよりも、家庭での課題とした文字によりチャット形式でおこなう方が、意見交換をし易いと考える学生が、約2倍近くいることがわかった。また、その理由については、指導者が文字による意見交換を取り入れようと考えた、「グループ内での口頭による発言に抵抗がある学生がいる」、「時間的余裕がなく、発言のスピードについていけない学生がいる」ということについての内容を挙げていた。さらに、指導者側からの理由として挙げた「(口頭による発言では、) 学生個々の発言を把握しにくい」については、文字による意見交換は、その結果を後で見返すことができるので、学生個々の発言を確認することができ、学習内容について、学生がどのように考えているのかがわかり、教師が授業を振り返るのに役立った。

もちろん、口頭による意見交換については、質問紙調査結果にあったように利点もあるし、口頭による意見交換は、仕事についてからも大切なことなので、無くすのではなく、文字による意見交換と併用しておこなっていく方法が良いと考える。

また、意見交換数について、チーム4と5、6の数が、8及び11、7と少ないのは、特定のメンバーの発言数が0又は1であったことが原因である。発言がなかったメンバーの質問紙調査の回答結果は、「文字(チャット形式)の方が口頭より意見交換がし易い」が1名、「口頭の方が文字(チャット形式)より意見交換がし易い」が2名となっていて、課題をおこなうことができなかったのは、文字(チャット形式)による意見交換が原因なのか、何らかの理由で今回だけなのかなど、他の授業においても文字(チャット形式)による意見交換を実施して検証していく必要がある。

## 6. まとめと課題

中央教育審議会(2021)の中教審答申第228号において「ICTの活用や、対面指導と遠隔・オンライン教育とのハイブリッド化による指導の充実」が提言されている。ハイブリッド型授業については、明確な定義はないが、従来の対面授業の中でおこなっていたものをオンラインでおこなったり、対面授業に加えて新たにオンラインの学習内容を加えたりしたものと考えられる。

そこで、口頭でおこなっているグループ内での意見交換を口頭で意見交換をすることに抵抗がある学生がいるのではないかと考え、ハイブリッド型授業としてオンライン上で、文字によるチャット形式でおこない、その効果を調べた。

その結果、文字による意見交換の方が、口頭による意見交換より意見交換がし易いと回答した人数は、36人中21人で、その理由としては文字をゆっくりと読むことができるので意見を理解しやすい。文章の方が、自分の意見をまとめやすい。ゆっくりと自分の考えを整理することができ

る。口頭で伝えるのが苦手なので文字の方が考えを伝えやすい。意見を見返すことができるなどであった。

このことより、文字によるグループ内での意見交換には、相手の発言が理解し易いとともに、自分の意見を言い易く、意見交換を深めることができる効果があり、特に、口頭での意見交換が得意でない学生には、利点が多いことが明らかになった。

調査の結果、グループ内での意見交換の方法として、口頭による意見交換に加えて、文字によるチャット形式の意見交換を行っていくことが、学生のグループ内での意見交換の質を上げることにつながることを示唆された。今後、他の教科でも、グループ内での意見交換を文字によるチャット形式でおこない、学生が文字による意見交換の経験を積む中で質問紙調査を再度おこない、その変化を調べて、文字による意見交換の方法を改善していきたい。

課題としては、今回の授業では、文字による意見交換をおこなう時間帯を決めることなく、自分の都合の良い時間帯に入力するようにした。教務・学修支援システムのプロジェクト管理には、文字が入力されたことを通知する機能がない為に、チームメンバーの意見が入力されたかどうか見るために、度々プロジェクトを開いてチャットを確認しなければならなかったことを負担に感じたという意見もあった。意見交換する時間帯を決めてしまうと、自分のペースで意見を入力できなくなるので文字による意見交換の良さが半減してしまう。文字が入力されたことがチームメンバーに通知される機能が望まれる。

## 文献

- 1) 環境アセスメントセンター西日本事業部、池田満之：「知ろう！学ぼう！行動しよう！よくわかるESDまんが読本1. 岡山市京山地区ESD推進協議会, 2016
- 2) 環境アセスメントセンター西日本事業部、池田満之：「知ろう！学ぼう！行動しよう！よくわかるESDまんが読本2. 岡山市京山地区ESD推進協議会, 2019
- 3) 堀田龍也：ICTを活用した「ハイブリッド型授業」をどう構想するか. 教育研究, 76(5), 16-19, 2021.
- 4) 文部科学省 (2018) 大学における多様なメディアを高度に利用した授業について  
([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryu/\\_icsFiles/afieldfile/2018/09/10/1409011\\_6.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryu/_icsFiles/afieldfile/2018/09/10/1409011_6.pdf))  
(最終参照日：2021.11.30.)
- 5) 文部科学省 (2021) 中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申) (中教審第228号) 【令和3年4月22日更新】  
([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chuk](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chuk)

yo3/079/sonota/1412985\_00002.htm)

(最終参照日：2021.11.30)